

「学び続ける教員」の目指すべき姿について ～京都市教員等の資質の向上に関する指標を改訂しました!～

Point 1

教員等の資質の向上に関する 指標とは



「指標」は、教員等が、新規採用時から管理職までの職責、経験等の段階に応じて、身に付けるべき資質能力を示したものです。教育公務員特例法により、指標の策定が義務付けられており、大学や校舎長会の協力を得て、教育委員会で策定しています。

Point 2

なぜ指標が改定されたの？

令和4年8月、国の「指標の策定に関する指針」が改正され、教師の資質能力が5本の柱で再整理されたことを踏まえて、改訂しました。(※下記参照)

(5本の柱)

- ①教職に必要な素養 ②学習指導 ③生徒指導
- ④特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応
- ⑤ICTや情報・教育データの利活用

Point 3

指標の主な改正内容は？

- 1 常に学び続け、高め合う教職員集団へ
「常に学び続けること」「教職員同士で互いに学び合い高め合うこと」で学校園の組織力向上につなげます。



- 2 資質能力を再整理

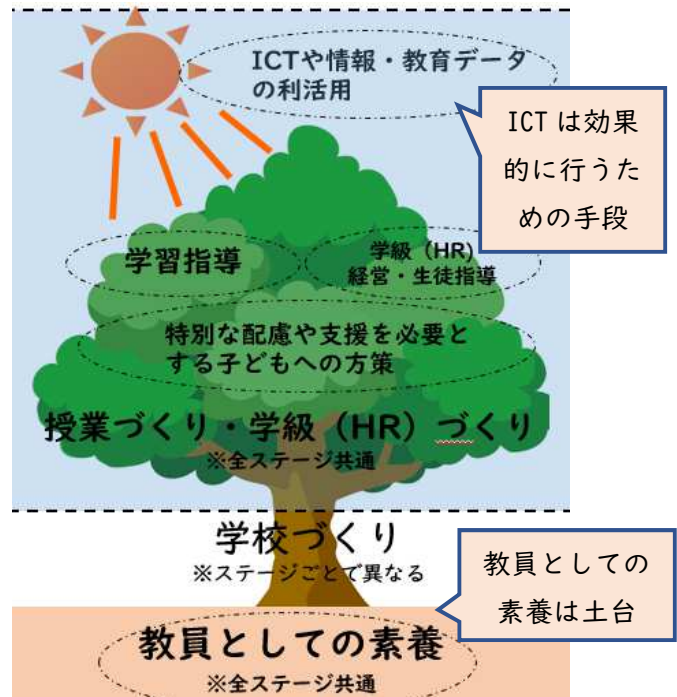
(右図参照⇒)

※養護教諭と栄養教諭については、「養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究協力者会議議論の取りまとめ」を踏まえて資質能力を再整理

- 3 キャリアステージが3段階→4段階に

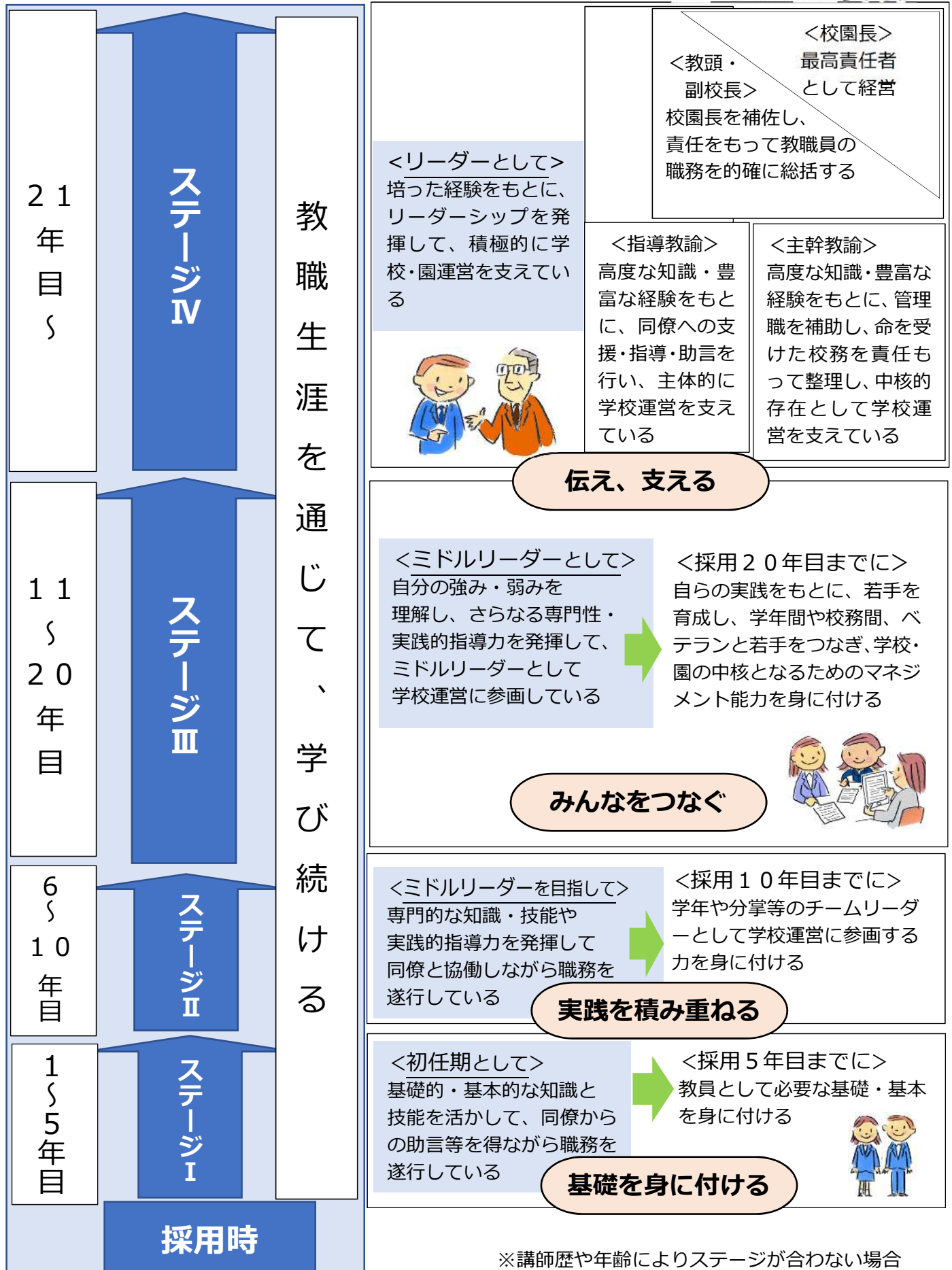
教員免許更新廃止等も踏まえ、ステージを改定。採用年次別研修でしっかり意識付けを行います。

<京都市版指標の構成イメージ図>



ステージⅠ (採用1～5年目) ＜初任期＞	ステージⅡ (採用6～10年目) ＜ミドルリーダーを 目指して＞	ステージⅢ (採用11～20年目) ＜ミドルリーダー＞	ステージⅣ (採用21年目～) ＜リーダー＞
基礎を身に付ける	実践を積み重ねる	みんなをつなぐ	伝え、支える

<京都市教員等のキャリアステージ>



※講師歴や年齢によりステージが合わない場合もあるため、年数は目安。